1959年1月31日第3種郵便物認可

週刊

うたごえ新聞

1/6・13（合併号）（1997年）NO. 1603

THE SINGING VOICE OF JAPAN (UTAGOE)
日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169 東京都新宿区大久保2－16－36
☎03(3209)0638 FAX03(3200)0105
振替口座 00120－6－5631 毎週月曜日発行
1部154円・税込(〒40円)・月615円・税込(〒160円)

'97新春 かがやいていのち

憲法施行50年

新年号 目次

新春ずーむあっぷ ゴスペラーズ 3面 ◇
モーッ！ファイト'97！今年の抱負 サークル合唱団から ◇
新春にリサイタル 堀部一寿さん 4・5面 ◆ 新春座談会
いのちかがやく21世紀へ 50周年記念祭典大阪・東京へGO！ 高橋正志幹事長 西恒人 鶴嘉一郎 副幹事長 6・7面
◇ 新春に朗報！サークル発足、加盟 コーラスはと（長野） 他 ホットライン 8面
◆ 交差点 9面 ◇ ミュージック・トゥデイ 大学男声合唱団（日下部吉彦） ◇
芸能マンスリー 安室奈美恵（伊藤強） ◇ ミュージック・チリでワールドNOW・ベストヒット
イリャプ（八木啓代） ◇ 楽譜紹介「いのちひからせて」（林学） 10・11面 ◆ ルポ『平和の島にサバニ漕ぐ』'97 ◇ 「空を見てますか」（池辺晋一郎） 12面

◀米軍基地No！の思いを歌と舞踊で
太田真季と琉球奄美舞踊〝東京・伊是名の会〟の「島の心ひとつに」

（次号1月20日号の本局発送は1月10日です）

人間が好きだから

新春ときめきインタビュー 歌人 俵万智さんに聞く

ふと心にとめることが形になり、ことばに息吹きを吹き込む短歌。新春ときめきインタビューはこの人、歌人の俵万智さん。高校の教師時代に出したベストセラー「サラダ記念日」は、短歌を楽しむ層を広げた。最近はエッセイ、美術館めぐりのレポーターなどなど幅広い活躍。すてきな短歌はどこから生まれてくるのだろう、と俵さんに聞く。インタビュアーは三輪純永本紙編集長

三輪 あけましておめでとうございます。近刊の「かすみ草のおねえさん」もすてきでした。

俵 ありがとうございます。

三輪 「サラダ記念日」は、何人かが作曲され歌にもなっていますね。林光さんの作曲は指揮者の岩城宏之氏の紹介とか。

俵 ええ、岩城宏之さんとは対談でお目にかかった時以来のおつきあいで、「サラダ記念日」もメロディーがつきそうな気がする、だったら他の知らない人が書くより林さんがいいと言って下さって、そんなご縁で合唱曲にしていただきました。

三輪 曲がついてどうでしたか。

俵 作者という立場を離れて楽しんで聞きました。繰り返し繰り返し声にしてもらうことで、味わい方が深まり広がる感じがしますよね。そういう形で歌ってくださる方もそうですし、聴いてくださる方にも短歌に出会ってもらえるのは嬉しいですね。

♥♥〝出会い〟は私の財産

三輪 「かすみ草の…」を読んでも感じますが、俵さんの出会いを新鮮にとり入れていく姿勢、すてきです。

俵 出会いって本当に大事だと思うんです。私が短歌を始めたのも学校の先生との出会いですし。この地球上には何十億という人がいるけれどその中で私が死ぬまでに出会える人って、ほんのわずかですよね。

（2面につづく）

ふめんだハ 明

強い陽射しが大地を、エメラルドグリーンの海を照らす沖縄。暮れに見た真っ青な空とハイビスカス。芭蕉布の沖縄を思う。新しい年、今年も吹け、たたかいの息吹をのせて南の風。

☆ ★ ☆

「自分たちには自分たちのアクション・プログラムがある」。基地撤去への計画を語った伊江島の青年。沖縄返還運動の頃、大人だったら、日本への復帰よりアメリカからも日本からも独立したいと主張した、と言う。独自の芸能、生活習慣を持ち、現に「薩摩征伐」まで大海原を大地のように飛雄した国である。

☆ ★ ☆

「しかし、なぜ日本復帰だったか。それは平和と基本的人権を掲げた日本国憲法を持つ国の元に帰ろうということだったんです」。「日本の米軍基地75%が集中している沖縄。だが、一つ一つ基地の機能は違う、たたかい方も違う、そこを知って欲しい」と、怒りだけではなく、酒を飲み語り、唄に酔い知れながら語り明かそうと言う。

☆ ★ ☆

「それぞれの人々がどのように存在しているか、それを知り合うことが人権の基本であり、そのことがお茶を飲み、酒を飲むように日々考えられるかどうかが人権を考える上で大事なこと」（50周年記念シンポジウム第2回より）。一人ひとりが輝く時代を、うたごえもそこにつながっている。今年もよろしく。（純）